

都市農村交流の第一人者による農村発ビジネス論

10/18 全国発売！！

『日本の田舎は宝の山 農村起業のすすめ』



曾根原久司（えがおつなげて代表） 著

（四六判、並製、税込み 1680 円、日本経済新聞出版社）

<目次>

プロローグ

第1章 ぼくの農村起業ストーリー

第2章 限界集落に人を呼べ

第3章 巻き込み、仕掛け、動き出す

第4章 働き方と人生を開墾する

第5章 山梨からの日本再生——農村資源で10兆円産業を

第6章 都市と農村をつなぐ仕掛け

おわりに

耕作放棄地、森林、空き家、果樹園、用水路、太陽……。農村部にある資源を都会のニーズとつなげば、日本全体で10兆円産業が立ち上がる。

NPO法人「えがおつなげて」の代表で、都市農村交流のカリスマ伝道師、曾根原久司さんによる著作を発売しました。

山梨県北杜市を拠点に、開墾ボランティアによる棚田の再生、捨てられていた間伐材の住宅利用、体験ツーリズムや農業の六次産業化など、数々のプロジェクトを成功させてきた、地域活性化の第一人者が、ユニークな実践例と起業の勘どころを紹介します。著者の持論である「10兆円産業構想」も詳細に展開されています。

日本の農村には資源、すなわち「宝」が膨大にあります。これらの資源を活用すれば、私は合計10兆円の産業と100万人の雇用創出が可能と考えています。読者のみなさんは、にわかには信じられないかもしれませんが、しかし、本書を読み進める中で、日本の眠れる農村資源のものすごさに気づかれることでしょう。またきっと、その可能性に心を揺さぶられることでしょう（本書より）